

第1回大館・鹿角地域医療構想策定調整会議の要旨

- 1 開催日時 平成27年7月28日（火） 午後3時から午後5時
- 2 開催場所 北部老人福祉総合エリアコミュニティセンター 多目的ホール

- 3 出席委員 23名中23名出席 敬称略

大里 祐一	大里医院長
小松 良彦	大館北秋田医師会副会長
多治見 公高	秋田労災病院長
館岡 博	大館市立総合病院長
大本 直樹	大館市立扇田病院長
松谷 富美夫	かつの厚生病院長
伊藤 實喜	明日実病院長
菊地 康文	鹿角中央病院長
池田 研	西大館病院長
小笠原 真澄	大湯リハビリ温泉病院長
山尾 克朗	大館北秋田歯科医師会長
安藤 克之	鹿角市・鹿角郡歯科医師会長
黒沢 光春	秋田県薬剤師会鹿角支部長
佐藤 昭彦	秋田県薬剤師会大館北秋田支部長
川又 留以子	秋田県看護協会鹿角支部連絡委員（かつの厚生病院看護部長）
菅原 裕宏	全国健康保険協会秋田支部総務企画グループ長
武田 由実子	大館市比内地区食生活改善推進協議会長
鎌田 俊	特別養護老人ホーム「つくし苑」施設長
成田 初音	大館市地域包括支援センター「かつら」管理者
庄司 敦子	訪問看護ステーションおおだてハチ公管理者
村木 真智子	鹿角市市民部いきいき健康課長
細越 浩美	小坂町町民課長
小林 朋子	大館市福祉部健康課長

4 協議事項等

○座長の選任等

委員の互選により座長に館岡委員が選任、副座長に松谷委員が座長から指名された。

○大館・鹿角地域の医療の現状等と構想区域の設定について

大館・鹿角地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員から様々な意見が出され、構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定としたいという意見がまとまった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○医師数が県平均より少ない状況でも、何とかやれている。 ○圏域内である程度完結しているが、三次救急のほとんどが県外へ流出しているため、県北における三次救急医療体制の整備が必要。
資源	○医師をはじめとする医療従事者の不足と診療所医師の高齢化が課題。 ○今後在宅医療を推進するための人的資源が不足することが課題。
アクセス	○鹿角地区は精神病床がないが、専門医療を必要としている患者にとってアクセスの面から受診しづらいという問題もある。 ○人口減少が公共交通機関に大きく影響し、通院が大きな課題。
調整	○将来存続可能な医療を目指すとするれば、病院の枠組を超えた調整が必要になってくるが、経営主体が異なる病院間の協議は難しい。
その他	○医師等関係職種の連携により、在宅医療を受けたい。そのためにも、疾病予防の活動をしている。

第1回北秋田地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年7月27日（月） 午後6時30分から午後8時30分まで

2 開催場所 北秋田地域振興局鷹巣阿仁福祉環境部2階 会議室

3 出席委員 12名中12名出席 敬称略

上田 忠	大館北秋田医師会理事
神谷 彰	北秋田市民病院長
佐藤 正孝	大館北秋田歯科医師会監事
瀬田川 一則	秋田県薬剤師会大館北秋田支部幹事
畠山 淳子	秋田県看護協会北秋田地区支部長（北秋田市民病院看護部長）
桜田 義一	全国健康保険協会秋田支部総務企画部長
中嶋 洋子	北秋田市・上小阿仁村連合婦人会長
金 史仁	特別養護老人ホーム「永楽苑」施設長
渡辺 幸子	北秋田市地域包括支援センター所長
廣瀬 千賀子	北秋田市社会福祉協議会訪問看護ステーション管理者
小笠原 吉明	北秋田市健康福祉部医療健康課長
伊藤 精治	上小阿仁村住民福祉課長

4 協議事項等

○座長の選任等

委員の互選により座長に上田委員が選任、副座長に神谷委員が座長から指名された。

○北秋田地域の医療の現状等と構想区域の設定について

北秋田地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員からは課題など様々な意見が出されたが、構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定としたいという意見となった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○構想区域が他地域と一つになるとしても、住民が不安にならないような医療体制を整えなければならない。 ○大館・鹿角地域と一つになったとしても、市民が不便になっては困る。 ○医療圏なので全ての機能を持っているが、この機能を維持したまま10年後に向けて移行できないと思う。 ○人口減少、患者減少、医師不足などでいずれ決断を迫られると思うが、今決めるのは、この地域の医療の崩壊につながるため、他の地域との合併は反対である。
-------	---

体制・機能	○がん診療連携推進病院の指定を受ける準備も進めており、状況が変われば流出が減るのではないかと考えている。面積が広いため、市民病院を中心に進めたい。 ○他の地域との合併は色々と見直しが必要になる。地域完結型で現状のまま進めてもらいたい。 ○10年後も流出の傾向は変わらず、自己完結は無理と感じている。 ○上小阿仁村の協会けんぽ加入者の70%が秋田市に流出している。上小阿仁村を秋田周辺地域に含めるなどという、医療圏の分割は可能か。 ○病院の機能に加え、その受け皿である介護・福祉も整備しながら、連携していくことが大事 ○広大な地域であるため、地域包括ケアシステムを広げることは大変。
資源	○現状より医師が減ると救急医療は難しい。
アクセス	○若者は秋田市で入院しているが、高齢者は近くに病院があった方が便利。
その他	○市民が望む医療や病院のあり方を知りたい。

第1回能代・山本地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年7月30日（木） 午後6時から午後7時15分まで

2 開催場所 山本地域振興局福祉環境部2階 会議室

3 出席委員 19名中19名出席

山須田 健	能代市山本郡医師会長
石岡 隆	地域医療機構 秋田病院長
近田 龍一郎	能代厚生医療センター院長
高橋 貞二	能代山本医師会病院長
野口 幹雄	能代病院長
京 吉紀	京病院長
島田 薫	森岳温泉病院長
小林 聡	能代市・山本郡歯科医師会専務理事
藤原 斉	秋田県薬剤師会能代山本支部長
佐々木 冷子	秋田県看護協会能代・山本地区支部長（地域医療機構秋田病院看護部長）
菅原 裕宏	全国健康保険協会秋田支部総務企画グループ長
大山 陽子	能代地区結核予防婦人連合会長
岩村 庄英	特別養護老人ホーム「もりたけ」施設長
松岡 修蔵	二ツ井地域包括支援センター所長
工藤 ゆき子	厚生連山本訪問看護ステーション管理者
小林 勝幸	能代市市民福祉部健康づくり課長
夏井 博文	藤里町町民課長
青山 勇人	三種町健康推進課長
大高 伸一	八峰町福祉保健課長

4 協議事項等

○座長の選任等

座長に山須田委員が選任、副座長に小林委員（能代市・山本郡歯科医師会専務理事）が座長から指名された。

○能代・山本地域の医療の現状等と構想区域の設定について

能代・山本地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員から様々な意見が出されたが、構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定としたいという意見となった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○人口規模は小さいが、患者流入出の状況を考慮すれば、現在の二次医療圏と同じ設定でよい。 ○急性心筋梗塞以外の疾病については、圏域内でかなり対応できている。
資源	○医師不足に対する人的、財政的支援について、民間病院に対しても公的病院と同様に支援してもらいたい。

第1回秋田周辺地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年7月22日（水） 午後1時から午後3時まで

2 開催場所 秋田地方総合庁舎6階 601会議室

3 出席委員 32名中32名出席

敬称略

松岡 一志	秋田市医師会長
小玉 弘之	男鹿潟上南秋医師会理事
下間 信彦	男鹿みなと市民病院長
中鉢 明彦	湖東厚生病院長
白山 公幸	藤原記念病院長
羽渕 友則	秋田大学医学部附属病院長
鈴木 明文	秋田県立脳血管研究センター長
小松 眞史	市立秋田総合病院理事長
阿部 栄二	秋田厚生医療センター院長
小棚木 均	秋田赤十字病院長
鈴木 敏文	中通総合病院長
小野 栄二	土崎病院長
佐々木 嘉一	秋田市歯科医師会長
石井 秀彦	男鹿市・南秋田郡歯科医師会長
寺山 雅子	秋田県薬剤師会秋田中央支部長
佐藤 友紀	秋田県薬剤師会秋田中央支部幹事
吹谷 由美子	秋田県看護協会秋田臨海地区支部（市立秋田総合病院看護部長）
中田 博	全国健康保険協会秋田支部長
小西 協平	健康保険組合連合会秋田連合会事務局長
小玉 喜久子	秋田周辺地区結核予防婦人会連合会長
辻 宏子	特別養護老人ホーム「リンデンバウムいずみ」施設長
岡部 博	デイサービスセンター「はまなす」センター長
稲庭 千弥子	医療法人久幸会理事長
川村 金高	井川町地域包括支援センター所長
菊地 富貴子	秋田県看護協会訪問看護部長・訪問看護ステーションあきた管理者
伊藤 千鶴	秋田市保健所長
渡部 源夫	男鹿市市民福祉部生活環境課長
嵯峨 司子	潟上市市民福祉部健康推進課長
原田 芳博	五城目町健康福祉課長
小柳 鉄秀	八郎潟町保健課長
鈴木 嘉	井川町町民課長
田中 誠悦	大潟村住民生活課長

4 協議事項等

○座長の選任等

委員の互選により座長に松岡委員が選任され、副座長として小玉委員が座長から指名された。

○秋田周辺地域の医療の現状等と構想区域の設定について

秋田周辺地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員から様々な意見が出されたが、他の地域の患者流入を受け入れつつ、現在の二次医療圏と同じ設定とする方向性となった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○地域医療構想の区域設定は、医療の流出入だけでなく、老人福祉圏と合致させることも必要。 ○国は流出入をしない地域完結を目指しているが、秋田周辺地域は他区域からの流入を受け入れる流れになるため、国の方向と逆を目指すことになることが秋田周辺地域の課題。 ○現在の医療提供体制と10年後の医療提供体制が劇的に変わるとは思えないし、さらに格差が進むかもしれない。国の考える理想と乖離した秋田の現状を踏まえ、10年後を議論した方がまとまりやすいだろう。 ○秋田周辺地域の医療は地域内で完結しているが、他の区域の患者を引き受けるにはどうすればよいのかを議論すべき。 ○医療が地域で完結するという前提でなく、患者の流出入を前提として構想を定めないといけない。 ○現実と乖離した理想的な考えの地域と現実的な考えの地域が混在しないよう、県レベルで統一してほしい。 ○今後10年の人口、交通状況などで流出入を検討して柔軟な区域設定をすべき。
資源	○他の医療圏に対する患者流出を防ぐための無理な医師派遣は当医療圏を苦しい状況に追い込むことになる。

第1回由利本荘・にかほ地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年7月15日（水） 午後6時から午後7時30分まで

2 開催場所 由利地域振興局福祉環境部2階 会議室

3 出席委員 17名中16名出席

渡邊 廉	由利本荘医師会副会長
間宮 繁夫	国立病院機構 あきた病院長
菊地 顕次	由利組合総合病院長
海法 恒男	由利本荘医師会病院長
鈴木 克彦	本荘第一病院長
佐藤 泰和	佐藤病院理事長
金 直樹	金病院長
鈴木 直之	由利本荘歯科医師会副会長
森川 和夫	秋田県薬剤師会本荘由利支部長
三浦 瑞枝	本荘第一病院看護師長
周防 政子	本荘地区結核予防婦人会長
加納 理	特別養護老人ホーム「夢うさぎ」施設長
眞坂 國利	由利本荘市地域包括支援センター所長
鈴木 千栄子	厚生連由利訪問看護ステーション管理者
加藤 均	由利本荘市健康福祉部次長兼健康管理課長
鈴木 啓	にかほ市市民福祉部健康推進課長

4 協議事項等

○座長の選任等

座長に金委員（金病院長）が選任、副座長に渡邊委員（由利本荘医師会副会長）が座長から指名された。

○由利本荘・にかほ地域の医療の現状等と構想区域の設定について

由利本荘・にかほ地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員から様々な意見が出されたが、構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定としたいという意見となった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○距離的に旧本荘市を中心にまとまっており、ほぼ圏域で完結している。 ○感染症患者を収容する病床が不足した場合、秋田周辺圏域まで搬送しなければならない。地域ごとに患者を収容する余裕が必要。
-------	---

資源	○診療所医師の減少と高齢化により、在宅医療をカバーすることは不可能となれば、入院でカバーするしかないのではないか。 ○受療率に応じて病床を削減するのではなく、医師を増やす努力や配慮も必要。 ○病床数を全県で配分使用とする場合は、地域の医師充足状況を加味しなければならない。
----	---

第1回大仙・仙北地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年7月16日（木） 午後1時15分から午後2時30分まで

2 開催場所 仙北地域振興局3階 大会議室

3 出席委員 19名中17名出席

敬称略

池田 芳信	大曲仙北医師会長
小畑 信彦	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター長
西野 克寛	市立角館総合病院長
佐々木 英人	市立田沢湖病院長
小野地 章一	大曲厚生医療センター院長
深川 茂	大曲中通病院長
善本 正樹	協和病院長
畠山 桂郎	大曲仙北歯科医師会副会長
高橋 正	秋田県薬剤師会大曲仙北支部長
平澤 昭子	秋田県看護協会大仙・仙北地区支部（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター看護部長）
桜田 義一	全国健康保険協会秋田支部総務企画部長
畦田 健	大曲だるまの会会長
逸見 博幸	大仙市地域包括支援センター所長
藤村 美幸	厚生連仙北訪問看護ステーション管理者
伊藤 今子	大仙市健康福祉部健康増進センター所長
伊藤 寛	仙北市福祉保健部医療連携政策監
高橋 久也	美郷町福祉保健課長

4 協議事項等

○座長の選任等

座長に池田委員が選任、副座長に小野地委員が座長から指名された。

○大仙・仙北地域の医療の現状等と構想区域の設定について

大仙・仙北地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員から様々な意見が出されたが、構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定としたいという意見となった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○一部生活圈域とは異なる地域があるが、行政区域の単位を考慮すれば構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定で問題はない。
-------	---

第1回横手地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年7月8日（水） 午後2時30分から午後4時15分まで

2 開催場所 平鹿地域振興局福祉環境部2階 研修室

3 出席委員 14名中13名出席 敬称略

西成 忍	横手市医師会長
丹羽 誠	市立横手病院長
小野 剛	市立大森病院長
平山 克	平鹿総合病院長
小松 肇	横手市歯科医師会副会長
後藤 浩美	ひらか歯科医師会副会長
佐藤 セツ子	秋田県看護協会横手地区支部長（市立横手病院看護部長）
中田 博	全国健康保険協会秋田支部長
佐野 洋子	横手市結核予防婦人会長
渡部 勝	特別養護老人ホーム「雄水苑」施設長
佐藤 明雄	横手市地域包括支援センター所長
石川 知子	厚生連平鹿訪問看護ステーション管理者
長井 健	横手市健康福祉部健康推進課長

4 協議事項等

○座長の選任等

委員の互選により座長に西成委員が選任、副座長に小野委員が座長から指名された。

○横手地域の医療の現状等と構想区域の設定について

横手地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員からは様々な意見が出され、構想区域としては隣接する湯沢・雄勝地域と統合したいという意見でまとまった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○湯沢・雄勝地域から横手地域に流入する患者が多く、流出する患者は現状では回復期である。医療だけでなく保健・福祉・介護も含めて考えると、横手と湯沢・雄勝を構想区域とすることが望ましい。 ○横手地域と湯沢・雄勝地域の2つの地域を同時に考えるための同じ会議の場を設けるべきだ。
-------	---

体制・機能	○生産人口が非常に減少し、ほとんどが高齢者となる中で、地域にどのような病床がどのくらい必要になるかを一番に考えなければならない。 ○構想区域の設定については、想定された医療需要の数値と実際の医療現場は違う。マンパワーや構造的なものも一緒に考えないと医療が崩壊してしまう恐れがある。 ○構想区域の設定に関して、次の医療計画策定時の二次医療圏は構想区域がそのまま反映されるとガイドラインに記載されてある。よって二次医療圏の見直しをしなければならないとなると、また話がややこしくなり、老人福祉圏域も二次医療圏に沿って設定しているが、それを一気に広げることがどのくらい妥当なのか今は分からない。ただ、急性期医療については、市内の先生達と協力してやっている実感はあり、それに相当する構想を練ることが一番妥当かと思うが、将来を想定することはなかなか難しい。 ○横手地域だけで病床数を決めてしまっても、湯沢・雄勝地域の患者を診ないとはならない。構想区域として、湯沢・雄勝も一緒に検討していった方がリーズナブルでもあるし、急性期の病床を横手市は大幅に減らさなくてもよく、湯沢の分も横手が急性期の病床をやっていくと考えるのが現実的だと思う。そういう形で考えれば、構想区域として、湯沢・雄勝と一緒に検討していった方がよいと考える。 ○生活圏としても、構想区域は湯沢・雄勝地域と一緒にするのが合理性がある。 ○病床の機能区分がアンバランスで慢性期が流出していることは事実であり、地域として変えていかなければならない。 ○在宅医療から見ても、湯沢・雄勝地域との連携が非常に重要。 ○病床削減はせざるを得ないと思うが、住民が良質な医療をできれば地域で受けられる環境を整える必要がある。 ○湯沢・雄勝地域と一体化することが地域住民にとってプラスになるとすれば、反対することではなく、住民の認識も踏まえた上で議論が進めばよい。
資源	○地域医療を担う若い医師の力が必要。

第1回湯沢・雄勝地域医療構想策定調整会議の要旨

1 開催日時 平成27年8月6日（木） 午後3時から午後5時まで

2 開催場所 雄勝地域振興局3階 大会議室

3 出席委員 15名中15名出席 敬称略

佐藤 政弘	湯沢市雄勝郡医師会長
中村 正明	雄勝中央病院長
佐藤 眞	町立羽後病院長
渡部 三喜	渡部病院長
柴田 貞彦	湯沢市雄勝郡歯科医師会長
佐藤 隆司	秋田県薬剤師会湯沢雄勝支部会員
石橋 昭子	秋田県看護協会湯沢・雄勝地区支部連絡委員（雄勝中央病院看護部長）
中田 博	全国健康保険協会秋田支部長
中森 れい子	受療者家族
赤平 京子	特別養護老人ホーム「いさみが岡」施設長
鎌田 信	雄勝在宅介護支援センター所長
田中 みね子	いさみが岡訪問看護ステーション管理者
鈴木 知	湯沢市福祉保健部健康対策課長
佐々木 幹夫	羽後町福祉保健課長
草薨 由美子	東成瀬村民生課長

4 協議事項等

○座長の選任等

委員の互選により座長に中村委員が選任、副座長に佐藤（眞）委員が座長から指名された。

○湯沢・雄勝地域の医療の現状等と構想区域の設定について

湯沢・雄勝地域における将来推計人口や医療資源の現状、患者の受療動向、疾病ごとの主な医療機能の現状などについて事務局からの説明後、構想区域の設定等に関する検討を行った。委員から現状に対する課題等様々な意見が出されたが、構想区域は現在の二次医療圏と同じ設定としたいという意見となった。

【委員からの主な意見】

体制・機能	○5 疾病・5 事業及び在宅医療の中の超急性期で重要疾患であるがん、脳卒中、急性心筋梗塞を見ると、急性心筋梗塞はすでに横手地域で対応することになっており、それ以外の疾病はある程度圏域内で対応できている。一般的な急性期はこの地域にも必要であることから、圏域全体を横手地域と一緒にする必要はない。3 疾病については、別途連携していくことが望ましい。 ○ある程度高度な救急など、分野によっては集約した方がいいものがあるが、想定している二次医療圏が、一般的な通常の疾患に対して責任を持つという考えであれば、現状の二次医療圏を維持することは妥当である。 ○住みながら入退院をするのは負担になるため、圏域はコンパクトにしながら、充実をどう考えるべきである。 ○医療計画策定時の二次医療圏設定理由として記載されている「患者の利便性の低下への懸念」が解消されないまま、さらに大変になっていくのではないか。患者の利便性を第一に考えなければならない。 ○患者の流出をみると、横手地域と圏域を一本化するという選択肢があってもよく、2025 年に向けて病院の機能を見直す点もある。 ○湯沢市、羽後町、東成瀬村それぞれの患者流出度を比較すると大きな差があり、特に東成瀬村においては横手市内での入院受療が大多数となっている。 ○東成瀬村の生活圏は横手側だが、在宅医療においては、湯沢・雄勝地域の基幹病院のバックアップが必要であるため、現在の二次医療圏で進める方がスムーズと考える。 ○先に開催された横手地域の会議においては、構想区域を当地域と一本化すべきとまとめられたことを報道で知ったが、その結論に至るまでの経緯が不明瞭である。 ○横手地域と構想区域を一本化すると、機能の相互補完がスムーズになる一方、湯沢・雄勝地域の基幹病院から医師が流出していく可能性が高いと考える。
資源	○患者流出の根底には医師不足がある。
アクセス	○山間部が多いことや冬期の交通アクセス悪化等を考慮すると、現行の二次医療圏とすべきである。
その他	○人口減少対策についても考慮すべきである。